

甲奴郡遺族会

甲奴郡遺族会概況

各町村別に遺族連盟に初まり昭和二十四年迄甲奴郡九ヶ町村であり當時の町村名その責任者は次の通り (一) 柱数

- 上下町 森光 寛一 (一三七) 矢野村 藤村 実則 (二〇五)
- 清缶村 田尾 甚六 (七六) 階見村 藤岡 禎一 (七五)
- 吉野村 伊達 剛民 (一一七) 甲奴村 則永 肇 (一一〇)
- 欽家村 永井文四郎 (一二〇)

■市町村合併により

- 上下町 上下矢野清缶階見吉野並世羅郡三川村松崎編入
- 甲奴町 甲奴上川並世羅郡広定編入
- 総領町 田総領家

初代甲奴都会長上下町佐々木信宣氏死去によって矢野徳之となるも前会長時代の記録不詳、現在松山忠生氏 (甲奴町) 昭和二十七年頃県の役員会を上下町で開催した事もあった。

甲奴村の則永肇氏備後遺族連盟の役員となり福山護国神社又備後遺族会館の建設に尽力せられた。

■新町発足後の各会長名

- 上下町 佐々木信宣、矢野 徳之、伊藤 有三
- 甲奴町 則永 肇、加村 一男、松山 忠生
- 総領町 森土 耕、原田 良造、間 哲三、藤原 博基
- 郡婦人部長

野上 美恵、池田二三恵、山本 允子、平川八重子、須沢 一子
郡青壮年部長

野田 泰弘、横山 文彰

■戦没柱数

町 別	旧村数	戦没柱数	会 費
上下町	五	四〇八	二、〇〇〇円
甲奴町	三	三三〇	二、五〇〇円
総領町	二	二二〇	三、〇〇〇円
計	一〇	九五〇	

■英霊顕彰、慰霊碑関係

町 別	記念碑	忠魂碑	招魂社	慰霊祭
上下町	七	二	八	隔年
甲奴町				毎年
総領町				概ね 五年毎



忠魂碑
(上下町公会堂)

八幡神社忠魂社
(上下町字井永)



慰霊碑
(上下町公会堂内)

甲奴郡の由緒

甲奴郡は広島県の東北部に位し、上下町は江戸時代より備後中津藩の直轄で、天領として岩見大森銀山の鉱石を尾道に運ぶ中宿で旅館の多い処であった。六月はあやめ祭、秋は案内子祭り、矢野温泉も広く知られている。一時（つちのこさがし）で比婆ごんに次ぐ騒ぎもあった。

甲奴町には小童で祇園祭りが古式豊かであり、又戦時中寺の梵鐘供出之が元米大統領カーター氏との因縁となり、関連の多催行事も行われて居る。

総領町は郡の北部で庄原に近く陰陽を結ぶ要路もあるも、山深く地域も広く奥地を特色にした活性化が進んでいる。遺族会の活動運営も三町三様である。

不肖矢野徳之は後期二十年甲奴郡会長をした。会員数県下一少数、行事も足並揃わず、軍基金造創に約二ヶ年経過の中で平成六年四月、四百万円の寄付を集め得た。これを機会に引退、次の会長（甲奴町会長）松山忠生氏が郡会長となる。不肖は若年より村議、町議、農業委員、森林組合、農業共済組合等地方役職に関係して居た関係で、町や社会福祉協議会との連絡協調よく遺族運動に格別の支援を得た。

創始期にあって活躍せられた先輩役員のご労苦も充分偲ばれ、故高橋等代議士又永山忠則代議士は本県の名誉会長としての薫陶も感ずる処多大であった。

備後遺族連盟の役員会、春の備後招魂祭、夏のみたま祭、秋の慰霊祭、靖国神社団参、県理事会、研修会等には欠かさず出席した。以って甲奴郡遺族会存在の面目を果す事に思いを尽した。

体験記

甲奴郡上下町 原田富代

昭和三十三年頃から戦死者遺族の靖国神社団体参拝が始まりました。あの当時は、遺族の方々もみんな元気でおられたので、はずんでお参りをいたしました。お参りをすればわが子に会える、主人にも会えるのだと思つて悲しいけれどもみんな楽しくお参りをしていました。あれから一年に一度は団参がありましたので、遺族の皆さんは、かわるがわるお参りをされていたようです。しかし、遺族の皆さんは、歳を重ねるにつれて体力が弱り体が動かなくなられたり、また亡くなられた方もたくさんあるので、だんだんとお参りをする人が少なくなってきました。ほんとうに悲しいことです。

あの当時は、戦争のためにとても苦しい、きびしいなかをお互いにお互いの子を育てていくのが大変でした。姑さんにも手伝ってもらつてやつとこのことでしのいできました。ほんとうに当時は、子供を育てるために汗と涙でまっ黒になつて働きました。

月日のたつのも早いもので、あれから早五十年がたちました。その当時に遺族の皆さんが一生懸命に育てられた子供たちは、立派に成人された社会のため、平和のために努力されていることと思います。どうかお元気で頑張ってください。

現在では、国民の皆様の努力により社会福祉が進み年金制度等が整備され生活していくうえで何も心配することがなくなりました。ほんとうに日本に住んでいてよかつたと思うとともに感謝いたしております。

どうか皆様お互いに手を取り合い、助け合つて靖国の英霊に恥じないよう二十一世紀に向かって努力邁進いたしましょう。